

# 第1回 食に関する指導研修会

平成28年12月17日(土)に名古屋市立八熊小学校 校長 中村 多賀子 先生をお招きし、「小学校家庭科指導の充実に向けて」という演題で研修会を行いました。愛知県栄養教諭・学校栄養職員研究協議会117名の会員が参加し、小学校家庭科領域の中で求められている食育のあり方や学校教育現場より、栄養教諭に期待する姿などについて学ぶ、大変有意義な研修会となりました。



< 中村 多賀子 先生 >

## 1. 平成27年度家庭科教育課程の工夫について

名古屋市では、教科等の年間計画を立てる際の参考となるように教育課程が編成されています。教育課程は、学習指導要領に基づき、名古屋市の地域実態、児童の発達段階と特性を考慮したうえで、実感を伴って学習することを重視しています。

また、編成の視点として、「2年間を見通した指導の工夫」「評価方法」「言語活動の充実」「問題解決的な指導の工夫」「家庭・地域との連携」などを重視していることを伺い、家庭科教育課程についての理解を深めることができました。

## 2. 教育課程における技術家庭科研究会での実践例

### 一人一実習

調理実習において、ペアで実習を行う実践例を紹介していただきました。グループ実習では分担していた調理作業も、この実習方法なら、一人で調理全体を通して実習することができます。授業者のねらいにあわせて、例えば、調理技術の高いA児と調理経験の少ないB児をペアにすることで、B児はA児の調理を見て安心して実習することができ、A児はB児に教えることで知識及び技術の確認ができるなど、子どもたち同士で知識・理解を深め実践的に学ぶことができると教わりました。

## 3. 新しい学習指導要領への視点 栄養教諭に期待する姿

私たち栄養教諭は学級担任と連携や、食を通して、教科等領域を横断する学習を展開していくことが求められていると感じました。また、栄養教諭がもつ、人的(地域の生産者とのつながりや栄養教諭自身)・物的(教材など)資源を活用し、横断的な学習を展開していくことで、食育をより効果的に実践できることを学びました。



< 講演中の様子 >

### 《参加者の声》

・話が分かりやすく、実践したくなる内容を多数ご紹介してくださってとてもよかったです。